

協働パイロット事業 (H20) 企画提案書

(様式2)

1. 事業の名称

清流の都創造に向けた下山田川 (興津川支川) 浄化事業

団体名：特定非営利活動法人 海辺を考える しおさい21

2. 事業方針 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえてください)

清流として名高い興津川の河口から約500m上流の右岸に合流する下山田川は、現在、河道部の側壁と河床の3面とも汚濁物質が付着し、合流部の興津川河床においては汚泥が堆積している。この状況を改善するために地域住民は興津連合自治会を中心として、特に工場排水が懸念される4社との話し合いや住民同士の意見交換を行ってきた。また、興津連合自治会は、昨年からは、興津連合自治会を核にした「興津川を美しくする会」が発足した。本事業の申請団体である「しおさい21」は、海岸侵食・河川環境・持続可能な社会創造について積極的に活動しており、興津連合自治会から相談を受けたのをきっかけに、下山田川を調査した。その結果、そこに生活している住民を主体として、NPOの河川工学や環境工学の専門家と協働で浄化事業を行うこととした。地域住民と専門家団体、行政が協働して河川浄化事業を行う意義は大きいものと考えられる。

3. 協働にあたって提案団体が果たす役割及び行政に望むこと

提案団体である当法人は、河川工学、海岸工学、流域環境工学の専門家を有し、水質調査により下山田川の状況を分析することができる。その調査結果を基に、地域住民からなる「興津川を美しくする会」、提案団体、行政(河川管理者である静岡市)で組織した「下山田川浄化検討会(仮称)」で議論を重ね、浄化手法と行動計画を立案し、下山田川の源流から河口までの浄化事業を行う。その後、提案団体は、行政機関の協力を得て水質調査を定期的に行い、調査結果を基に浄化状況を診断する。さらに、調査結果を検討会で話し合い、より効果的な浄化を検討する。今回のような問題は、住・官・学(今回はNPO)が協働して行うことが重要であり、NPOの存在意義でもある。わが国も協働して事に当たる精神を涵養する必要があり、行政機関は潤滑油の役割を果たすことが望まれる。

4. 成果目標 (できる限り具体的に表現してください)

今回の事業は、富栄養化により汚染した、居住区を流れる川を協働して浄化することが目的である。このような問題は、従来、管理者である行政機関が解決する案件とされてきたが、今回は住・官・学の枠組みの中で、それぞれの立場と役割を發揮することにより成果が得られる。期待される成果は下記の事項となる。(1)下山田川の水質の現状が把握できる。(2)検討会の議論を通して共に水質浄化に向けた方策を住民の意思で立案できる。(3)協働で事業を行うことにより水質が改善される。(4)水質調査を継続することによりより効果的な浄化手法を再考することができる。(5)将来を生きる若者に対して教育的な効果がある。(6)自然環境と社会環境を創造することの大切さを感じ得る。

5. 事業計画

今回申請する事業は、清流興津川の支川である下山田川を浄化することである。その事業計画は下記に示す通りである。

1. 事業目的：下山田川の水質浄化をはかる。
2. 事業対象河川：下山田川（興津川水系）
3. 事業期間：平成20年7月～平成21年3月
4. 内容および手法：

- (1)興津連合自治会で組織した「興津川を美しくする会」、NPO法人「海辺を考える しおさい21」、行政機関で検討会（仮称）を設け、浄化手法を検討する。
- (2)当NPO法人は、水質計測装置と流速計を東海大学と連携し使用可能であることから、定期的に上・中・下流の3地点で水質と流速（流量）を観測する。BODは当法人で分析可能であるが、栄養塩（P, N）や金属類は精度を保証するため分析会社に委託する。ただし、予算面から栄養塩（P, N）や金属類の分析は限りがある。
- (3)10月か11月の土曜日に、上流から河口までの一斉浄化を行う。この作業用としてデッキブラシが必要となる。また、清掃の際に発生する汚濁した河川水が興津川に流入しないように貯水槽と排水ポンプをレンタルする。
- (4)浄化剤として、矢作ダムの流木を活用してNPO法人が製造した炭を使用する。この炭は、空隙があるため微生物による浄化機能が期待でき、さらに安価である。
- (5)一斉浄化前後に観測した水質状況を踏まえて、この事業の総括を行い報告書としてまとめる。

6. スケジュール

今回の事業のスケジュールを下記に示す。

事業調査スケジュール

調査項目	平成20年						平成21年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 下山田川浄化検討会（仮称）		☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
2 水質観測		☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
3 一斉浄化				→←					
4 水質の検討と浄化法の検討			→←						
5 事業化の検討及び評価							→←	→←	→←
6 とりまとめ報告書作成								→←	→←

7. 実施体制および主要スタッフの経歴

今回の事業は、提案団体である当法人の理事らが責任を持って行うものであり、特に理事長はこの事業を統括するものとする。しかし、あくまでも提案団体と連合自治会の連携によって行うものである。技術的な裏づけとなる当法人の主なスタッフの経歴は下記の通りである。

(1)理事長 田中博通 (職業：東海大学海洋学部海洋建設工学科教授, 専門：河川工学, 海岸工学, 流域環境工学, 経歴：興津川をはじめ県下の河川整備計画に携わる)

(2)副理事長 石田一弥 (職業：建設コンサルタント, 専門：海岸工学, 生態系調査, 経歴：海岸のコンサルタントと生物調査に携わる)

(3)事務局長 菊池健史 (職業：エコエネルギーコンサルタント, 専門：再生可能エネルギー, 環境論, 経歴：農業土木コンサルタントから現在は新エネルギーのコンサルタントに携わる)
当 NPO 法人の会員には、数名の河川工学と海岸工学を専門とするスタッフがいます。

8. 特にアピールしたいこと (専門性、独自性、先駆性、実績など)

今回の河川の水質浄化に関する事業は、提案団体のスタッフの専門とする分野である。提案団体である当法人は、今年3月9日に「山・川・海の連動」をテーマにしたシンポジウムを開催し、3月24日付静岡新聞において一面を使ってシンポジウムの内容を広く報告した。提案団体は、持続可能な自然環境と社会環境を創造することを目標に活動しており、これを実現するためには多くの方々との議論を重ね、本質を希求し、自らの行動を持って実践することが大切であると日頃考えている。

このような観点から、今回の下山田川浄化事業は、そこに生きる住民と共に将来引き渡す自然環境を回復する夢がある。自治会と環境エンジニアリングの専門家が協働して汚れた川を回復するといったこのような試みは、国内では例が少なく、公共事業費削減の状況下において、今後重要な手法となりうる。また、提案団体は、実験を主とした委託研究を受託し、設立認可後3年間で多くの実績を残している。

協働パイロット事業 (H20) 見積書

団体名: 特定非営利活動法人 海辺を考える しおさい21

企画のタイトル: 清流の都創造に向けた下山田川 (興津川支川) 浄化事業

項目	金額	説明
デッキブラシ (50本)	25,000	河川清掃活動で使用する。
河川浄化作業時の水処理関連機材 借用料 (排水ポンプ、汚水処理対策機材等)	150,000	河川清掃活動時に排出する水処理対策として使用する。
河川浄化のための施設材料費 (浄化材 (流木から製造した木炭), 浄化材設置材料)	63,000	河川水を浄化するために使用する。
小計 A	238,000	
消費税 B = A × 0.05	11,900	
合計 A + B	249,900	

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金額	主な用途

企画提案の概要書

提案団体名	特定非営利活動法人 海辺を考える しおさい21
企画案のタイトル	清流の都創造に向けた下山田川（興津川支川）浄化事業
提案の要旨 (企画提案書の概要を400字以内で ご記入ください。)	<p>清流として名高い興津川の河口から約500m上流の右岸に合流する下山田川は、現在、河道部の側壁と河床の3面とも汚濁物質が付着し、合流部の興津川河床においては汚泥が堆積している。この状況を改善するために地域住民は興津連合自治会を中心に「興津川を美しくする会」が発足した。本事業の申請団体である「しおさい21」は、海岸侵食・河川環境・持続可能な社会創造について積極的に活動しており、興津連合自治会から相談を受けたのをきっかけに、下山田川を調査した。その結果、そこに生活している住民を主体として、NPO法人の河川工学や環境工学の専門家と協働で浄化事業を行うこととした。「下山田川浄化検討会（仮称）」で議論を重ね、浄化手法と行動計画を立案し、下山田川の源流から河口までの浄化事業を行う。その後、水質調査を定期的に行い、調査結果を基に浄化状況を診断する。さらに、調査結果を検討会で話し合い、より効果的な浄化を検討する。</p>
金額	249,900 円

《注意事項》

ホームページでの公開資料です。以下のことに注意してください。

- ・ 丸数字などの特殊記号は使わないようにしてください。
- ・ 図やイラスト、写真、動画、スライド等は掲載できません。
- ・ htmlで表現できない複雑な表現方法はご利用できません。